

公益財団法人日本訪問看護財団

重症心身障害児者の地域生活モデル事業実施計画書

団体名	公益財団法人日本訪問看護財団
施設名	あすか山訪問看護ステーション
所在地	東京都北区東十条1-9-12 溝口ビル1階
事業担当者	
連絡先	
メールアドレス	

国庫補助所要額	4,310千円 (「別紙3 所要額内訳書」の額と一致)
事業実施予定期間	平成26年7月1日 から 平成27年3月31日
事業の目的	小児の在宅療養における他職種連携の重要性は、24年度在宅医療拠点事業「小児在宅療養における他職種連携の現状と課題」によっても述べられているところである。職種間の相互理解を深めるために、相互の職種の実践を「見える化」していくことは、疾患を持つ子どもたちの在宅移行推進の示唆となるため、本事業に取り組む。
事業内容及び手法	<p>1. 重症心身障害児者の在宅療養に関する数量的な把握 区内の当該児者を担当する障害保健課からの情報による数量的な実態把握</p> <p>2. 重症心身障害児(者)の支援に関する状況把握</p> <p>①区内保健師による母子支援に関する状況把握</p> <p>②区内中規模病院小児科の受療状況の把握</p> <p>③区内療育センターの受療状況の把握</p> <p>④区内医師会の小児科医院やクリニックの受療状況の把握</p> <p>⑤近隣のN CUを有する病院の退院(移行)支援担当者が行っている移行支援状況の把握</p> <p>⑥小児在宅医療提供機関による往診状況の把握</p> <p>⑦区内訪問看護ステーションによる訪問看護状況の把握</p> <p>⑧区内特別支援学校による通学・訪問支援の状況の把握</p> <p>⑨区内児童発達支援施設への通所状況の把握</p> <p>⑩区内訪問介護事業所の訪問介護状況の把握</p> <p>質問紙による実態把握の後で、各事業者代表にヒアリングを行う。</p>
① 重症心身障害児者の実態および地域資源の把握	
② 協議会の設置、コーディネートする者の配置(人数や勤務体制等)や役割	<p>当該児者の在宅支援担当者、在宅支援に精通する者、および有識者で構成される「重症心身障害児者の生活支援協議会(仮称)」を設置する。</p> <p>当該協議会は年4回開催する。</p> <p>コーディネート担当者：小児の訪問看護師2名、事務員2名</p> <p>勤務体制：訪問看護師は訪問看護業務との兼務 事務員は非常勤職員(財団本部とステーション)</p>

<p>③ 選んだテーマの事業内容及び手法</p> <p>テーマ</p> <p>在宅重症心身障害児者支援者養成研修</p>	<p>1. 他職種が集った合同研修会の開催（3回／年）</p> <p>テーマ：「利用者のニーズから考える在宅支援のあり方（仮題）」</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 超重症児の在宅療養をしている家族の想いと療養の実際 ② 地域サービスを利用しながら障害児の成長発達と共に生活している家族の想いと療養の実際 ③ 成人となった障害児と共に生活をしている家族の想いと療養の実際 <p>方法：療養している家族の想いと生活の状況を知り在宅支援はどのようにあるべきかを他職種で構成するグループで検討する（家族、主治医、在宅支援関係者が講師）。</p> <p>2. 他職種による相互実地研修の開催および結果のまとめデータ収集を行う10事業者・職種から4名ずつの研修者を選出し10職種間の相互実地研修のマッチングを行った上で1日の体験研修を行う。</p> <p>3. 評価及び報告書作成</p> <p>研修参加者に研修前にアンケートを行い、終了後には振り返りシートを作成する。協議会にて当該情報を検討し、集約して報告書にまとめる。</p>
--	--

別紙3 重症心身障害児者の地域生活モデル事業所要額内訳書

1 国庫補助所要額

総支出予定額 (A)	寄付金その他の収入等 (B)	差し引き所要額 (A-B)	国庫補助所要額
4,310,000円	0円	4,310,000円	4,310千円

※「補助金所要額」は、「差し引き所要額」の千円未満の額を切り捨てた額を記入すること。

2 総支出予定額の内訳

区 分	支出予定額	積 算 内 訳
1 報 酬	679,600 円	協議会委員長 15,100 円×4 回×1 人=60,400 円 副委員長 12,900 円×4 回×2 人=103,200 円 委員 12,900 円×4 回×10 人=516,000 円
2 賃 金	1,494,000 円	調査票設計者賃金 8,300 円×2 人×10 日=166,000 円 事務局職員雇上賃金 8,300 円×2 人×80 日 =1,328,000 円
4 諸謝金	656,000 円	講師謝金 30,000 円×3 人×3 回=270,000 円 実地研修受託協力謝金 10,000 円×10 事業者×1 回=100,000 円 ヒアリング調査協力謝金 10,000 円×10 事業者×1 回=100,000 円 実地研修事前打ち合わせ謝金 2,000 円×10 事業者×1 回=20,000 円 ヒアリング調査員謝金 8,300 円×2 人×10 事業者=166,000 円
5 旅 費	70,000 円	協議会出席旅費 500 円×15 人×4 回=30,000 円 実地研修交通費 1,000 円×20 人×1 回=20,000 円 実地研修事前打ち合わせ交通費 1,000 円×10 事業所×2 人×1 回=20,000 円
6 需用費 消耗品費	192,400 円 (内訳 79,270)	調査票封筒購入費 (発送・返信) 20 円×170×2=6,800 円 アンケート用紙、事務用品、文具類等 72,470 円
印刷製本費	(113,130)	発信用・返信用封筒印刷費 10 円×170×2×1.08=3,672 円 調査票印刷費 15 円×10 ページ×170 セット×1.08=27,540 円 研修資料印刷費 15 円×10 ページ×50 人×3 回×1.08=24,300 円 協議会資料印刷費 15 円×10 ページ×20 人×4 回×1.08=12,960 円 ヒアリング調査票印刷費

		$15. \text{円} \times 3 \text{ ページ} \times (10 \text{ 事業者} + 2 \text{ 調査員} \times 10) \times 1.08 = 1,458 \text{ 円}$ 報告書印刷費 $200 \text{ 円} \times 200 \text{ 冊} \times 1.08 = 43,200 \text{ 円}$
7 役務費	980,000 円	実態調査データ入力・分析外注実態調査 ヒアリング調査分 800,000 円
通信運搬費	(内訳 800,000) (180,000)	調査票郵送費・返信 $90. \text{円} \times 2 \times 1,000 \text{ 人} = 180,000 \text{ 円}$
8 会議費	60,000 円	協議会会議費 (お茶+弁当) $1,000 \text{ 円} \times 4 \text{ 回} \times 15 \text{ 人} = 60,000 \text{ 円}$
9 使用料及び賃借料	178,000 円	協議会開催会場費 $7,000 \text{ 円} \times 4 \text{ 回} = 28,000 \text{ 円}$ 研修会会場費 $50,000 \text{ 円} \times 3 \text{ 回} = 150,000 \text{ 円}$
合 計	4,310,000 円	

(注) 寄付金その他の収入等を充当する経費 (補助金を充当しない経費) には、下線を引くこと。

3 寄付金その他の収入等の内訳

区分	収入等予定額	積算内訳
団体の自己資金	0円	
寄付金	0円	
参加費	0円	
その他		
合 計	0円	

事業実施スケジュール表

団体名：公益財団法人 日本訪問看護財団

	平成26年4月	5月	6月	7月	8月	9月
事業実施内容				第1回協議会 (調査票と研修内容の検討)		第2回協議会 (研修会の報告・実地研修事業者の選別および研修者の選抜)
						第1回他職種合同研修会 ○アンケート調査実施
事業実施内容	10月	11月	12月	平成27年1月	2月	3月
	第3回協議会 (第2回研修会の報告)			第4回協議会 (第3回研修会報告と実地研修の報告) まとめ		
	第2回他職種合同研修会	第3回他職種合同研修会				
	実地研修					
	○ヒアリング調査実施					
						事業実績報告書の報告書の作成

(記入上の留意事項)
上記記載例を参考に、いつ・何をするか具体的なスケジュールを記載すること。

平成26年重症心身障害児者地域 生活支援モデル事業 中間報告

公益財団法人日本訪問看護財団
あすか山訪問看護ステーション

進捗状況

- ①協議会メンバーの再検討と協力依頼
- ②第1回協議会の開催日9月〇日

検討事項

実態調査の方法

研修内容について

} 素案の作成済

①協議会メンバーの再検討と 協力依頼

座長: 首都大学東京人間健康科学看護科学域在宅看護学

教授 河原 加代子

- | | |
|-------------------------|--------|
| ①北区障害福祉課 滝野川障害相談係 係長 | 酒井 史子 |
| ②北区健康いきがい課 赤羽健康相談係 保健主査 | 滝沢 美苗 |
| ③東京都立北療育医療センター 看護科長 | 村田 千幸 |
| ④東京北医療センター 副センター長・看護部長 | 又木 満理 |
| ⑤東京都立大塚病院 課長補佐(看護長) | 玉川 美貴 |
| ⑥はんだこどもクリニック 北区医師会 | 繁田 龍雄 |
| ⑦北特別支援学校 校長 | 引間 宗人 |
| ⑧肢体不自由児者の父母の会 北区代表 | 田中 順子 |
| 日本訪問看護財団 常務理事 | 佐藤 美穂子 |
| 日本訪問看護財団 研究担当 | 土平 俊子 |
| あすか山訪問看護ステーション 統括所長 | 平原 優美 |
| あすか山訪問看護ステーション 所長 | 田中 道子 |

②第1回協議会の開催日9月〇日

検討事項

◆実態調査について

- ①数量の把握: 北区
- ②調査票による状況把握(調査票依頼文1)・・・資料1
対象: 協議会委員のうちサービス提供者
目的: あらかじめ状況把握を行い効果的なヒアリング調査となるための情報収集
方法: 調査票を送付(調査票1)
実施期間: 平成26年9月
内容: 簡単な質問事項で回答しやすくしたものを各ヒアリング対象機関へ送付し、回答後返送してもらう
- ③ヒアリング調査(ヒアリング調査依頼文2、同意書1、ヒアリング内容)
対象: 協議会委員のうちサービス提供者
目的: 重症心身障害児者の把握と支援に関する状況把握
方法: ヒアリング調査(協議会委員が行う)
実施期間: 平成26年10月
内容: 北区保健師、北区医師会、北療育センター、都立北養護学校、都立大塚病院、東京北医療センター、肢体不自由児者の父母の会、訪問看護ステーションに重症心身障児者の実際、他機関との連携状況に関する意見を聞く。

◆研修内容と方法について

多職種合同研修会の開催（研修の概要）

対象：重症心身障害児者にかかわる医療、保健、福祉
学校の専門職

目的：これからの地域における重症心身障害児者のサ
ービスネットワークを作っていくための様々な方
法を考える。

方法：重症心身障害児者を支える地域ネットワークや
サービスの創造を先進的に行っている講師講演



平成25年度岐阜県「重症心身障害児者の訪問看護活用モデル」
グループ討議
それぞれが実地研修した学びの共有を行う

多職種による相互実地研修の開催および結果と評価

対象：重症心身障害児者にかかわる医療、保健、福祉
学校の専門職

目的：医療・保健・福祉の連携職種がそれぞれの役割
を体験することで、理解を深める。

方法：10事業者・職種から研修者を選出し、10職種間
の相互実地研修

- ・マッチングを行った上で1日の相互体験研修を
行う。
- ・研修の評価は研修会、実施研修参加者に研修
前にアンケートを行い、終了後に振り返りシートを
作成し参加者の学習評価を行う。（アンケート内容
別紙）…資料2
- ・互いに学んだことを共有する。

実態調査(調査票素案)資料1

平成26年度厚生労働省障害者総合支援法推進事業 重症心身障害児者の地域生活モデル事業
「重症心身障害児者の実践調査(実)」

調査票1

公益財団法人 日本訪問看護財団

【記入上の注意】

- この調査票は施設・組織の管理職の方がご記入ください。
- 平成26年9月1か月間の状況をお答えください。
- 調査票は、両側の運送用封筒を使用して【平成26年〇月〇日(〇)】までにご返送ください。ご回答いただきました内容については、次のように取り扱います。
 - ① 調査票の目的以外には使用いたしません。
 - ② 統計的に処理し、事業所名等が特定できないように配慮します。
 - ③ 自由記述の内容も、個々の回答者が特定されないよう配慮し、データ化します。
 - ④ 調査の拒否や、調査項目の一部への回答拒否があっても、そのことで不利益が生ずることはありません。
 - ⑤ 調査結果は、報告書として公表されます。

1. 平成26年9月の1か月間における利用者数 ()人

2. 連携機関

1. 病院()か所	2. 訪問看護ステーション()か所
3. 学校()か所	4. 療育センター()か所
5. 保健所()か所	6. 児童相談所()か所
7. 母子保健センター()か所	8. 相談支援事業所()か所
9. 障害児通園施設()か所	10. 重症心身障害児通園事業()か所
11. 療養通所介護事業所()か所	12. その他()

3. 重症児スコア
該当箇所にご印をつけてください

1. 25歳以上	2. 10~24歳	3. 10歳未満	4. 不明
----------	-----------	----------	-------

4. 自由意見 (地域支援、家族支援についてのご意見を自由にご記入ください)

	地域支援	家族支援
1) うまくいったと感じたことについて		
2) うまくいかなかったと感じたことについて		

研修参加者アンケート素案 資料2

平成26年度厚生労働省 重症心身障害児者の地域生活モデル事業
「研修終了後アンケート(実)」

公益財団法人 日本訪問看護財団

【記入上の注意】

- このアンケートは研修に参加された方がご記入ください。
- 研修終了後の状況をお答えください。
- アンケートは、両側の運送用封筒を使用して【平成26年〇月〇日(〇)】までにご返送ください。ご回答いただきました内容については、次のように取り扱います。
 - ① 本事業の目的以外には使用いたしません。
 - ② 統計的に処理し、事業所名等が特定できないよう配慮します。
 - ③ 自由記述の内容も、個々の回答者が特定されないよう配慮し、データ化します。
 - ④ 調査の拒否や、調査項目の一部への回答拒否があっても、そのことで不利益が生ずることはありません。
 - ⑤ 調査結果は、報告書として公表されます。

研修終了後アンケート

1. この研修に参加して学んだことのようなことですか	
2. この研修に参加して研修内容で更に追加したほうがよいと思う内容は何がありますか	
3. 重症心身障害児者地域生活支援を円滑に進めるために課題と思うことはなんですか	
① その課題を解決するために必要なことは何だと思えますか	
② 現在存在する地域生活支援に列する仕組み以外に考えられる新しい仕組みはどのようなものがあると思えますか	

☆以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。☆

平成26年度厚生労働省 重症心身障害児者の地域生活モデル事業
「研修前のアンケート(実)」

公益財団法人 日本訪問看護財団

【記入上の注意】

- このアンケートは研修に参加していただく方がご記入ください。
- 研修前(現在)の状況をお答えください。
- アンケートは、両側の運送用封筒を使用して【平成26年〇月〇日(〇)】までにご返送ください。ご回答いただきました内容については、次のように取り扱います。
 - ① 本事業の目的以外には使用いたしません。
 - ② 統計的に処理し、事業所名等が特定できないよう配慮します。
 - ③ 自由記述の内容も、個々の回答者が特定されないよう配慮し、データ化します。
 - ④ 調査の拒否や、調査項目の一部への回答拒否があっても、そのことで不利益が生ずることはありません。
 - ⑤ アンケート結果は、報告書として公表されます。

参加いただく方の属性について

1. 職種 該当するものに○をつけてください	1. 医師 2. 看護師 3. 保健師	4. 教師 5. 介護職 6. MSW	7. その他 ()
2. 所属機関 該当する機関に○をつけてください	1. 病院() 3. 学校() 5. 保健所() 7. 行政機関()	2. 往診・クリニック() 4. 療育センター() 6. 訪問看護ステーション() 8. 相談支援事業所()	10. その他()

研修前アンケート

1. 重症心身障害児者の地域生活支援を円滑に進めるために必要だと思うことはなんですか	
2. 重症心身障害児者の地域生活支援を円滑に進めるために足りないと思うことはなんですか	

☆以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。☆